
TRANS(トランス)

白川 みづき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トランス

TRANS

【Nコード】

N0595D

【作者名】

白川 みづき

【あらすじ】

物語の主人公は、大阪府吹田市の江津西中学校3年生ゴリ。圧倒的の強さをもったゴリの周りでさまざまな喧嘩や出会い、友情、笑い、涙が巻き起きる。彼らは何の為に喧嘩をしているのか？何故強くなりたいのか？そこにあるものは？

第1話：江津西ランキング

大阪府吹田市江坂に江津西中学がある。

この物語の主人公はその中学の3年ゴリと呼ばれる坊主頭の男だ。

3年の初日。

ゴリと同じクラスのお洒落なパーマをあてたショウが教室で話しをしていた。

「転校生？こんな時期に？」

「ホンマやって！なんか尼崎の方かららしいで。」とショウが言った。

「クラスは？」

「3組や！」

「なんや1組ちゃうんか。」とゴリが言うと間髪入れずショウが

「まあ、どうせ男らしいからそんなに落ち込むなや。」と言った。

「男なん？ほんならどうでもええわ…。」とゴリは右手をアゴにあて外を眺めた。

その日初めてのチャイムが鳴った。

…3組

「転校生の白川 勇輝くんです」と先生が自己紹介をした。すると、かるい金髪リーゼント頭のユウキが一步前にでた。

「この学校で一番強いヤツは誰や！！」と、大声で怒鳴った。

するとソフトモヒカン頭の小太りの1人の男が席を立った。「お前

…」とその男が目を閉じ小さく呟いた。

「お前が1番強いんか！？」とユウキが言うと、男が目を開け

「調子にのってんちゃうぞ！！」と怒鳴りかえしユウキの方に走っ

ていった。

その日の放課後。3組

「で？その転校生は？」

「リョウチンにボコボコ」

「マジで！ハッハッハハハ！ダッサ！」

すると教室にユウキが入ってきた。「よう！転校生大丈夫かあ？」と声を掛けたのは背の高いテルだった。

「なんやねん！」とユウキはうつとうしそくに言つと。

「まあまあ！そうカリカリすんなや。仲良くしようや。」

「あん！？」とユウキがテルを睨むと

「お前！根性ありそうやし、この学校で強いヤツを教えたるわ。」
と言いつテルはユウキの肩を叩いた。

すると茶髪の背の低いトミーが黒板の前に立ち説明しだした。

「ええか？まずはお前が負けたりリョウチンはうちの10番」

「10番？」とユウキはあっけにとられた。

「次に」

9番は1組のシヨウ

8番、2組のアベベ

7番は俺

6番、4組マンゾウ

5番そこにおるテル」とトミーが言つとユウキはテルの方を見た。
するとテルは得意気にユウキにむかいピースをした。

「じゃあ次からは別格ゾーン！」

4番、3組のタイキ

3番、4組のようすけ

2番、2組のカートやな！

こいつらはドングリの背比べや。

こいつらにはケンカ売らん方がお前の為や。1年の時に、3年10人を病院送りしたり、2年の時高校生相手にケンカしたり、なんせめちゃくちゃや！」とトミーがユウキに言つとテルが黒板に向かいチヨークを取り

「そしてそんな別格な3人をはじめ俺たちをまとめてるのが…1組のゴリ！」と大きな字で書いた。

「ゴリの強さは半端ちゃうで！からだゴツいだけじゃなく、空手、柔道はじめ、締め技やケンカのセンスもめちゃくちゃええ、まじでありえへんくらい強い。」

とテルがチヨークを置くとユウキは口を開いた。

「俺は尼崎の学校でNo.2やったんやぞ…そんな俺が圏外って…」悔しそうにユウキが言つと、

「まあ。気にすんな！上には上があるからな。ハッハッハハハ！」とトミーが笑いながら帰る用意をしだした。

「まあ！校内でのケンカはやめとけ！どいつもこいつもそこそこ強いから。仲良くいこうや！」とテルも帰る用意をしだした。

すると教室のドアが勢いよく開いた！

バターン！！

3人はビツクリしてそつちに目をやった。

そこには茶髪のロングをなびかせた女の子が立っていた。

「トミー！テル！カート見いひんかった？」と怒りながら女の子は言つた。

「…部活ちゃうかな…」とトミーが苦笑いしながら言つと、

「部活に行つてなかった。」と女の子は答えた。

「じゃあ…」

とテルは上を指さした

女の子は天井を見つめ

「屋上…？」と言いそのままいそいで立ち去つた。

「今のは？」とユウキが呆氣にとられながら言うと、
「今のは校内No.1の力ワイ子やけど怒らしたら怖い女子No.1
…」とトミーが言った。
「ちなみに2組カートの彼女のマイリン。あれに逆らったら女子み
んな敵になるから要注意…」とテルが言った。
「そうなんやあ…（俺とんでもない学校に転校してきたかも…）」
とユウキは下を向き帰る用意をしだし。
そして3人は帰った。

その日の夜、江津公園

「お前何で部活こんかってん？」と言ったのは背の高いロン毛頭のヨ
ウスケだった。

「ああ…江津中のウエポンとケンカしてた。」と言ったのは短め茶
髪に帽子を横向きに被ったカートだった。

「またかあ！？お前から好きやな！

で？どっちが勝ったん？」とヨウスケは呆れてたように言った。

「俺…」2勝1負かあ…またアイツお前にケンカ売りに来るな！
ハッハッハハハ！」とヨウスケは笑いながらカートの肩を叩いた。
「売ってきたらまたボコボコにしたるわ！」

「まあ…ケンカもええけどバスケ出来る程度にな！」

「わかってるわ！」

「俺ら夏、全国行けるかな？」と言いながらヨウスケは夜空を見上
げた。

「当たり前やろ！俺ら上手いし。」

「相変わらずその自信どっからくんねん。全中となるとそんな自信
つくんやな。」

「まあな！大阪選抜止まりと違うから。ハッハッハハハ！」とカー
トは笑いながらヨウスケの肩を叩いた。

「お前しばくぞ！」とヨウスケは言いカートを冗談で睨んだ。

すると二人の背後から大人の男の声が聞こえた。

「健全な中学生がこんな時間に何してんねん!？」

二人はビツクリして振り返った!

「松さん!」と二人はさらにビツクリして声をあげた。

それは吹田警察所の松さんだった。「すみません!すぐに帰りますんで…」とヨウスケは言いすぐに立ち去ろうとした。すると

「カート!？」と松さんは呼び止めた。

「なんすか?」とカートは振り返った。

「お前、最近暴走族狩り起きてるん知ってるか?」

「あつ!はい…。確か吹連の『忍』がボコボコされて単車燃やされたりしてるみたいっすね。」

「そうや…それでや!暴走族のチーム『忍』がな、吹田連合の全チーム集めて動き出してんねや。」

「それで…」

「暴走族のヤツらがそいら探しまわってんねんや。」

「へえ…その暴走族狩りしてるやつらは誰なんですか?」

「何処の連中か、誰かはわからん。ただ情報としてそいつらは通称『白』って呼ばれてるんや!その暴走族狩りは全員、白ハンカチ頭や腕に巻いてんねや。」

「ハンカチ?」とカートが考えると

「バンダナの事やる!」とヨウスケがカートに言った。

松さんは自分が間違った事に気付き恥ずかしそうにした。

「まあ…どっちでもええわ!お前らその『白』の事なんか知ってるか?」

「さあ…?」とヨウスケが言うと

「そうか…そうやったらええわ。ただお前ら気付けや…」と松さんは意味深に二人に言う。

「どう言う事ですか?」とカートはさっきまでの穏やかな目付きから一変し松さんを睨んだ。

「まあ、中学生のお前らがしゃしゃり出ると痛い目にあうちゅう事

や！」

「わかってますよ。じゃあ俺ら帰るんで。」とヨウスケは言い二人は家帰った。

それから1ヶ月の月日がたった！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0595d/>

TRANS(トランス)

2010年11月28日09時10分発行